

8月19日（水）本年度第7回（通算 第2788回）

「 クラブ創立記念アクト合同例会 」

担当/理事会・青少年・親睦家族委員会 18時30分～釧路プリンスホテル

◆お客様と来訪ロータリアン

小甲 薫さん、大町 勇太郎君、斎藤 慎也君、菊池 吉史君、益村 優希さん、村上 沙也加さん
内山 裕生子さん（以上7名 釧路北 RAC）

◆メーカーキャップ

7 / 24 鈴木 圭介君 （釧路北 RAC）

◆出席報告【会員総数 72 名 免除 6 名 出席計算に用いた会員数 72 名】

本日の出席率	出席者 40 名	メーカーキャップ 0 名	出席率 55.5%
前々回の修正出席率	出席者 39 名	メーカーキャップ 0 名	出席率 58.2%

◆ニコニコ献金（今年度累計 115,000円）

- ・創立記念日です。みんなでお祝いしましょう～佐渡 正幸君
- ・本日の例会、よろしくお願ひします～中島谷 友一朗君、小野寺 英夫君、日比 龍雄君、横田 國勝君
- ・創立記念を祝して～北川 健二君
- ・本日の司会よろしくお願ひします～工藤 健司君
- ・本日もよろしくお願ひします。真ちゃんもうひと息～坂入 信行君
- ・ノサップマラソン完走しました～鈴木 圭介君
- ・結婚記念日のお花を頂き、ありがとうございます ～高橋 哲也君
- ・今週末 24 時間テレビの募金受付、今年もやります。23日 11:30 頃中継来ます～平井 昌弘君

◆会長挨拶

《佐渡会長》



皆さんこんにちは、本日は例会にご出席頂きまして誠にありがとうございます。

そして今日は合同例会と言う事で、ローターアクトの小甲会長を始めメンバーの皆様ありがとうございます。先週はお盆休みと言う事で2週間ぶりに皆様とお会いすると言う事になるとお思います。お盆におかれましては、それぞれ皆さんお休みを取られた方、あるいは、お仕事をしていた方、色々いらっしゃると思いますが、釧路も今年は非常にジメジメと暑い日が続いておりますので、夏バテにならない様お体にご留意頂きたいと思っております。そして、釧路の短い夏は続きます。末広では、8月28日までヒヤガーデンも行っております。そして、9月初めには、はしご酒、どんぱくこの短い夏を皆様と楽しめたらと思っております。

さて、本日はクラブ創立記念と言う事で、先ほど能登パスト会長からもお話がありました通り、1958年8月18日にIRの承認を受け、本年度当クラブは57歳の誕生日を迎えました。私は本年度58代会長でございます。初代会長は米内さんです。それから、年年歳歳、日々を積み重ねて、本日2788回の例会になります。本当にこの58年間におきまして、諸先輩の皆様におかれましては、この釧路北ロータリークラブをしっかりと立ち上げ、

そして発展させ、そしてこの地域社会に奉仕の精神をしっかりと埋め込んで頂きました事を心より感謝と敬意を表するしだいでございます。昭和 33 年と言いますと、直前会長の萩原さんや、パスト会長の高橋 貢さんが同じような歳だと思えます。そう考えると本当に釧路北ロータリークラブは長い歴史の中で進んできたのだと感じます。今日の例会は少し趣向を凝らしまして、皆さんと一緒に、お酒を飲みながら、そして本年度から始まっております、ビュッフェスタイルも例会の中に取り入れ、楽しい食事をしながら、我々のクラブの誕生日

をお祝いしようと言う趣旨で行っております。この後、副幹事が作成しました、「釧路北ロータリークラブの歩

み」を皆さんと観ながら、この釧路北ロータリークラブの歴史を考え、そしてその後足立パストガバナーから、これからのロータリークラブと言う物をお話しして頂きたいと思えます。お食事もお酒もまだ残っておりますので、是非、食べながらそして飲みながら、耳だけはスピーカーの方へ傾けて頂き、進めていきたいと思っています。誕生日と言う物は、個人に例えると、今までの人生を振り返りながら、今後の展望や夢を考えるとと言う記念日でございますので、今日はそういう一日を皆さんと一緒に楽しくそして、真剣に過ごして行った中で、我々クラブの誕生日をお祝いするとともに、これからの 3 年、5 年、10 年後の釧路北ロータリークラブの夢を語り合える一日にしたいと思えますので、どうぞ一日よろしくお願ひします。

ありがとうございます。

パーソナルボックスヘナシ

◆ 幹事報告

《中島谷幹事》

回覧として 4 点



1. ガバナー事務所より公式訪問のお礼。
2. 釧路北 RAC 9 月例会プログラム、
3. 8 月 23 日 (日) 12:00～
不動産のビック釧路店にて 24 時間テレビ チャリティーフリーマーケット
4. 8 月 30 日 (日) 13:30～新釧路川 (鶴見橋もと) にて河川敷清掃

報告 (口頭)

- ・ 10 月 16 日 (金) ～ 17 日 (土) 旭川で行われます「地区大会」。昨日、申し込み締切日で当クラブからは 17 名の登録となりますことを報告いたします。参加されます皆様には後日、北ナイト等も含めまして詳細をご案内いたします。
- ・ 野澤英明会員より退会届が提出されました。様々な形で留意しましたがご本人の意思は固く、先般の理事会にて報告承認しておりますのでお知らせいたします。
退会後のクラブ会員数は正会員数 72 名、名誉会員 2 名、出席計算に用いる会員数 72 名となりますことを報告します。
- ・ ガバナー公式訪問の記念写真が出来上がっています。一枚 1,000 円で受付にて販売しておりますのでご購入ください。

「クラブ創立記念アクト合同例会」

「釧路北ロータリークラブの歴史」の説明



足立パストガバナーよりのご講演

「これからのロータリー、ローターアクトクラブに求められること」



前段の発表、各年度の会長さん方、素晴らしい活動を行ってきたなど、あらためて勉強になりました。

本日は、中島谷幹事より、「これからのロータリー、ローターアクトクラブに求められること」を講演して欲しいと依頼されましたが、ロータリークラブを構成するのは、ロータリアン一人ひとりだということを考えまして、ロータリアンには少し厳しい話になると思いますが、お話をさせていただきたいと思います。

今日の話は、坂本パストガバナーの地区大会の際に特別講演されました、佐藤千住さんという、パストガバナーの中でも重鎮の方がおられます。この方はヨーロッパに旅行中に亡くなったわけですが、その方の遺稿集の中から参考にさせていただいてお話をさせていただきます。

まず、「プロフェッショナルとアマチュアの違いは何でしょうか？」という問いでございます。これは簡単に言うと「プロフェッショナルは自分の技量を金で売ることができる専門職である」ということ。「アマチュアは報酬を貰うまでも無く、趣味や余技、遊びのために行うこと」という風に定義ができると思います。当然、ここにいらっしゃる方々は、職においての質は別にしましても、皆さんプロでありますから、自分お仕事でお金を稼いでいるわけでありまして、その仕事に精進し、切磋琢磨して、毎日研鑽積んでいらっしゃるという風に思います。ビルゲイツという方を皆さん御存知かと思ひます。

あの方が「報酬なしでプロの仕事をしてもらってもそれは期待できない」という話をしております。社会生活において私たちが現実に働く上ですべての事について報酬を得られることばかりかということ、そうではないということは皆さん御承知の通りであります。その代表的なものが家事労働であると思います。本来はそれ自体が生活の一部でありますから、労働の対価として家事をすることがお金を稼ぐということとは馴染まないと思いますけれども、一方、家政婦さんという職業がありますけれども、これは家事を労働としておりますので立派な職業と言えらると思います。

ですから、過去の規定審議会、2013年であります。主婦」と言う職業がロータリーの入会のための一つの職業分類に認められて、現在はロータリーに主婦が入会できるということになったことは皆さん、御承知の通りであります。「労働の対価」として得られる報酬と言うのは、その多寡（多い少ない）は別にして得られるお金は個人的な欲望を満たす、贅沢なことは抜きにして、生活のための手段である、家族の生活を支えるための手段である、皆さんわかると思います。しかし、金額の多寡は別にして、なぜ皆さんが朝から晩まで一生懸命働くのかという疑問がわいてまいります。それはたとえば事業を広めたい、人より多く稼いで贅沢をしたいという欲望からくるものかもしれませんが、そういうことであれば、事業を広げれば広げるほど、稼げば稼ぐほど、砂上の楼閣と化して、いつつぶれるかもしれないという恐怖も起こってくるわけです。一生懸命働くということは根本的には、皆さんが仕事をする上で、働くことに生きがいを得られるかどうか、働くことで社会が自分を必要としていて、自分の存在が社会に高く評価されて、皆さんに尊敬され、信頼されるという充足感があるから、皆さん一生懸命働くんだと私は思います。そして、その報酬は得ないで働くと言うことの極みがボランティア活動だと定義できます。ボランティアと言うのは無償でと言うのが基本で、一部は有償のこともあります。自分の時間を犠牲にして社会に貢献するというのがボランティアです。ですから最近のロータリー活動というのは、ボランティア的という部分が少しあると思います。昔はロータリーと言うのは奉仕団体ではない。それからボランティアではないという議論が実しやかに話されました。もちろん現在でも奉仕団体ではありませんし、理論は別にして実際に行われている行為としてはボランティア活動であります。

ボランティアというのは典型的な社会還元でありまして、社会的に高く評価されて尊敬もされます。これが真の意味のサービスであるというふうに佐藤千寿さんはおっしゃっています。サービスという言葉、これが日本ではどのような受け取られ方をするかという事は、議論の余地があるところで御座いますけれども、サービスには日本的には「まけてちょうだいよ」とか「サービスが悪いね」というような捉え方をしますけれども、その中の一つの意味に献身つまり自己犠牲から成り立っているものがサービスであるというアメリカ的な考えも中にはあるわけでありまして。 そうだとするならば、これはロータリーにおける奉仕イコール、サービスが何を意味するものなのか。 佐藤千寿さんはこのように話しております。「ロータリークラブの会員というのは、会員個人個人である。そしてそれは勤務する会社や業界ではないという前提があります。 それからロータリーの会員になっていろいろな人達との交流を通して自分自身を切磋琢磨するという事は、あくまでもその本人自身の人間形成が目的であって、言わば成人の集まりの学校に入るようなものだ」という事でありまして。 であるからして、昔からロータリーは職業人のための成人教室とも言われているわけでありまして。 そのための会費というものは授業料であります。 ですから例会や行事に出席をして、いろんなことに費やす経費も自己負担をすべきであるというのが前提であります。 ただその人のロータリー活動は巡り巡って会社のためになるという論理からすれば、会社が補填してもかまわないというような理論が成り立つわけでありましてけれども、しかしそれを経費で落とせるかどうかは、所属している国の税務署の考え方によりますから、落ちる落ちないはその国での判断で違うものがあるというふうに思います。

しかしロータリーは基本的には会費に関しては、税務署で経費として認められるという事になっておりますから、皆様方もそういうふうにとらえていると思いますけれども、ここでひとつ矛盾が発生いたします。ロータリーという組織の単位というのは、クラブであります。クラブとして私たちはR Iに所属している。個人がR Iに所属しているわけではないという事でありまして、そしてガバナーが統率するに相応しい数が、地区として認められて編制されています。だいたい人数としては会員数2千人以上、そして70クラブ前後というふうになっておりますけれども、それぞれにその組織として事務処理に掛かる経費が発生してきます。それがクラブ会費、そして地区負担金、そして順当分担金という事になるわけでありまして、しかしそれはあくまでも事務費でありまして、近年はその事務費に多額の費用を上程しているクラブが多数視られます。そうすると奉仕活動に要する費用というのはどこから捻出するのだろうかという事になります。私がガバナーの時に2500地区のクラブを表敬訪問した時に、会費の半分以上は事務費で終わっていて、奉仕活動に使う金が3万円とか5万円という計上をしているところが沢山ありました。そういうところは変えて下さいとお願いしたのですが、地区内のあるクラブのように活動報告書・計画書を100万円近く掛けて作っているところもあって、これが本当に意味があるのかなと疑問をもったのも確かであります。そして奉仕献身する人がそれぞれの力量に応じてその奉仕をするという事に関しては、自分でお金を負担するという基本があります。

ロータリーには奉仕をする会員の個人の集まりであるという前提があります。個人奉仕の鉄則という事で、これはロータリーとライオンズの違いであります。ロータリーは個人奉仕である。ライオンズは団体奉仕であるという大きな枠組みがありますけれども、ロータリーというのは奉仕する会員個人の集まりであるという事でありまして、そこがライオンズと違うところでもあります。これに照らし合わせると当然奉仕の資金は個人で負担するという事になるわけでありまして、そう考えますとクラブや地区などの団体として必要なものは事務処理の経費ですから、大した事はないと思われがちですが、これが予想外にお金が掛かるわけでありまして、2500地区でもガバナーが選出されるたびに地区事務所が転々と移転をして、またパソコンを新しく用意して、机やいろいろな備品を揃えて、その経費に莫大な費用が掛かっているのも事実です。

最近のロータリーでは、この奉仕というものが個人奉仕から団体奉仕に傾斜しているというふうになりました。そうするとどんどん必要経費が嵩んでいきます。

民主主義だから、その経費を全会員で均等に割るという話になってきます。ついには、それぞれの活動に従事する役職員の労に報いる費用として、給与が発生してきます。私達も事務所を設けて、人を雇ってその人の人件費を払い、そして事務所経費も払って、全部やって頂いていると言う事になる訳です。ようするに、顔の见えない他人のお金で奉仕をすると言う事が普通になってしまっていると、佐藤千寿さんは言うておられます。その結果、安易に役職をする者の数が増やされて、かかる経費が膨れ上がるという構造になってきます。ロータリーでは、会員が減少しても、地区の役職員は増えると言う逆転する構造になってきます。まさに、今のRIがその通りで、今年度の会長の時には事務職員を多く増やしているのです。それにビチャイ・ラタクルさんが非常に怒り「なぜ増やすのか」と言っていると言う事もあります。今や私たちは、このRIの活動と言う物は事務職員が考え出した活動計画を、私たちが乗せられ、踊らされていると言っても過言ではない部分が出てきています。佐藤千寿さんは、20世紀の民主主義から資本主義の成熟の過程における壮大な虚構の一つが他人のお金を集め、これを運用して儲けると共に、その罪滅ぼしの奉仕もまた、他人のお金によって行うと言う大芝居が見えてきたと警鐘を鳴らしています。

ミルトン・フリードマンと言う方がおりますが、その方が近代福祉社会の虚構のひとつは、善行が他人のお金で出来ると言う事であると言っております。そして、お金の使い方に関して、4つの例を挙げています。

1つ目は「自分のお金を自分のために使う」この場合は、節約と効率の原理が働きます。

2つ目は「自分のお金を他人のために使う」これは節約の原理は働くが、効率への配慮が無くなるという事になります。

3つ目は「他人のお金を自分のために使う」これは専ら、効率を考えるが節約の配慮が無くなるという事になります。

4つ目は「他人のお金を他人のために使う」これは節約も効率も考えないと言う、4つのパターンがあると言っております。

この「他人のお金を自分のために使う」とそれから「他人のお金を他人のために使う」と言う場合、自己顕示欲のみが肥大して結局犯罪行為に及ぶと言う危険性が出てくると言っています。

問題なのは、善行をする・善い行いをする人達が所属する組織が大きくなり、顔が見えない仲間が主体性を持った時であると言っています。組織が大きくなって、お金の流れが見えなくなると、組織自らが情報公開をしても、今度はその中で統計の嘘と言うのが表れてきます。皆さんは色々な組織に属していると思いますが、会計決算の中で統計上、上手に表現されていても、実は野の内容は何に使われているのか詳細は解らないと言う事実が多くあると思います。そして組織が大きくなれば、なるほど首領・そのトップとして栄光も大きく輝く事になる訳ですから、当の本人にしてみれば、自分の任期中にもっと大きくしようとなります。虚構で有ろうと無かろうと、体裁の良い立派な組織を作り、臭い物には蓋をして、表面上立派な決算報告を作って最後は花道を作り退任すると言う事が出てまいります。しかも組織を維持運営する為の必要経費は他人のお金です。今の社会はこのような図式で成り立っているわけですが、ロータリアン個人においては、どのような場合であっても奉仕と言う名目で他人のために奉仕する場合には、まず自分のお金を使う事が原則であると言う事を頭に入れて置かなければなりません。けっして、ロータリーを利用して儲けようと考えない事です。他人のお金を使う際には、その使い道はまず他人の為に使う、自分の為につくのでは無いと言う事を心に銘記して頂きたいと思います。そのような事を勘違いしたガバナーが、過去に色々と問題を起こしておりますけれども、ロータリーは成人の修業の為の道場である言うのは、人間としての倫理観・道徳心を学んで皆さんが奉仕を实践する事で社会は良くなるという組織であります。

最後に佐藤千寿パストガバナーがこの様におっしゃっておられます。

「ロータリーは権力構造では無い、まして自由結社であるから会員の思想統制までできる訳が無い、我々ロータリアンは己の心情に基いて、我が道を行けば良いのである、しかし、組織が団体奉仕化するにしたがい、財団への寄付の要求が益々増えて来るだろうと思います。そして寄付は強制では無いと言う物のそれは建前で有って近年の RI のやり方は、ガバナーに対する脅迫さえあると思います。それは国の税制と同じく悪法も法なので、何とか適当に折り合いをつけるしかあるまいと、しかしその行き着く先は結局墓穴を掘るだろう」と結んでいます。

たかがロータリー、されどロータリー、皆さんの行ったことは必ず天が見ていると思います。

最後に西郷南洲翁遺訓の中で第 35 条の言葉を皆さんに披露いたします。

「人を寵絡して陰に事を謀る者は、好し其の事を成し得る共、慧眼より之を見れば、醜状著るしきぞ。人に推すに公平至誠を似てせよ。公平ならざれば、英雄の心は決して攬られぬもの也。」

今の言葉に訳しますと「人を誤魔化して、陰でこそこそ策略する者は、たとえその事が上手に出来上がろうとも、物事を良く見抜く人が居ればこれは醜い事が直ぐに解るのである。人に対して常に公平で真心を持って接するのが良い。公平で無ければ英雄の心を掴む事は出来ない」と西郷南洲翁は言っておられます。今日の創立記念例会にあたりまして、「釈迦に説法、孔子に悟道」と言う事に成りましたが、私からのお話とさせていただきます。

ありがとうございました。